

# 風邪とインフルエンザ

渡辺内科医院院長

渡辺 恭行

第5回丹生郡医師会健康公開講座

## 風邪とインフルエンザ

日時:平成22年9月26日(日)  
会場:朝日多目的ホール  
渡辺内科医院 渡辺恭行

### インフルエンザは 知っていますか

#### なぜとは違います

- 突然の高熱、強い倦怠感など全身症状
- ときには合併症で重症になることも

次のような場合は合併症の危険があります。  
速やかに受診を！

はいいん  
異常な行動・高熱 意識がはっきりしない

**高齢行動に対する注意**

インフルエンザに感染すると、高齢者の場合は肺炎や脳炎、脳膜炎など合併症の危険が高くなります。また、高齢者は免疫機能が低下しているため、感染しやすくなります。また、高齢者は基礎疾患があるため、感染すると重症化する危険があります。高齢者は、インフルエンザに感染した場合は、速やかに受診を！

**予防の基本**

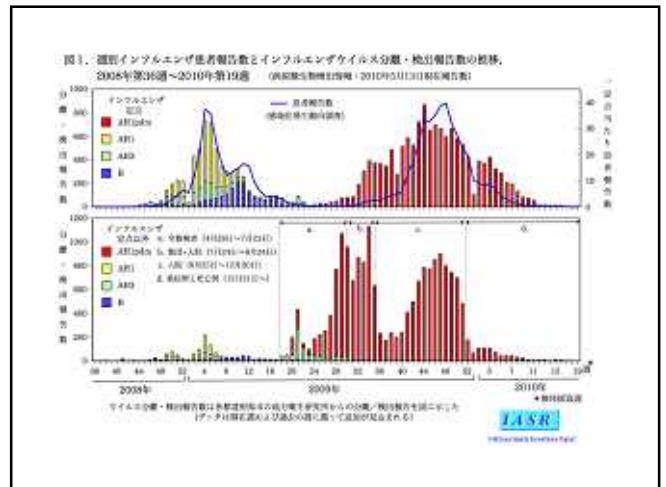
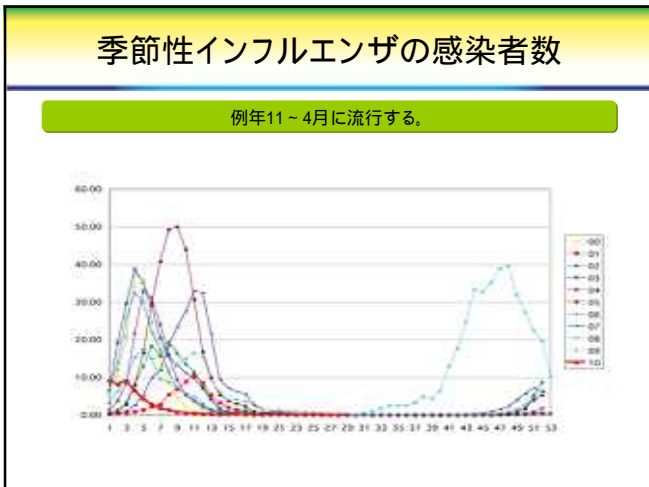
- ワクチン接種
- こまめな手洗い
- マスクの着用
- 人混みや密集を避ける
- 換気

**インフルエンザにかかったら**

- 安静に休む
- マスクを着用
- 咳やくしゃみはマスクで抑える
- 家族や同居者との接触を避ける
- 学校や職場を休む
- 水分をこまめに取る
- 栄養をこまめに取る
- 加湿器などで湿度を上げる

**薬を飲んでも**

- ウイルスを殺すことはできません
- 症状を和らげ、回復を早めることができます
- インフルエンザウイルスを抑制する効果があります
- 症状を和らげる効果があります
- ウイルスを殺すことはできません
- 症状を和らげる効果があります



### インフルエンザとは？

インフルエンザウイルスによる急性の呼吸器感染症

- 呼称: 流行性感冒 (流感)
- 流行期: 例年11～4月に数百万人規模で流行 (伝染病: エピデミック)
- 潜伏期: 1～5日 (平均3日間)
- 感染力が強く、主に飛沫感染でヒトからヒトへと短期間に感染が拡大

### インフルエンザウイルスの感染経路

主な感染経路は、飛沫感染とする考え方が主流。

- **飛沫感染**: 咳やくしゃみとともに放出されたウイルスを吸い込むことによっておこる
- **接触感染**: ウイルスが付着したものを触れた後に目、鼻、口などに触れることで、粘膜・結膜などを通じて感染

# 風邪とインフルエンザ

渡辺内科医院院長

渡辺 恭行

## かぜとインフルエンザの違い

インフルエンザは普通のかぜと比べ、急激な発症と全身症状が特徴。

	インフルエンザ	かぜ
症状	38 以上の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状	咽頭痛、鼻汁、くしゃみ、咳嗽などの上気道炎症状
発症	急激な発症 咽頭痛、鼻汁、咳嗽などの上気道炎症状は遅れて発現する	発熱や全身症状は強くない
原因ウイルス	インフルエンザウイルス	ライノウイルス、コロナウイルス

## 新型インフルエンザとは？

一般に免疫を獲得していないことから、感染拡大が懸念される。

### ● 新型インフルエンザの定義

**「過去数十年間にヒトが経験したことがないHAまたはNA亜型のウイルスがヒトの間で伝播して、インフルエンザの流行を起こした時、これを新型インフルエンザウイルスとよぶ」**

厚生労働省 新型インフルエンザ対策報告書

- 免疫を獲得していないために、全国的かつ急速な蔓延により国民の**生命および健康に重大な影響を与えるおそれがある**と認められるもの

## 今回の新型インフルエンザ\*の特徴(日本)

\* 猪由来インフルエンザ A/H1N1

急な発熱や倦怠感などの全身症状は、季節性と類似

### 特徴として

- 感染力は強いものの、多くの患者が軽症のまま回復している。
- 抗インフルエンザウイルス薬の治療が有効
- **基礎疾患(糖尿病や喘息等)を有する者や妊婦等で重症化する例が報告されている。**
- **潜伏期間は1~7日**

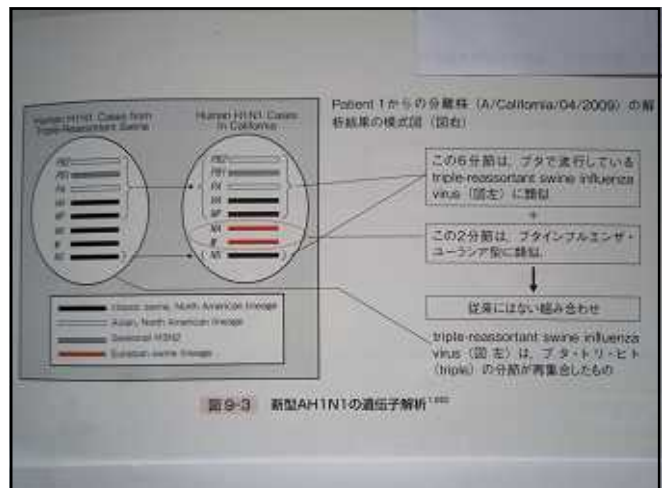
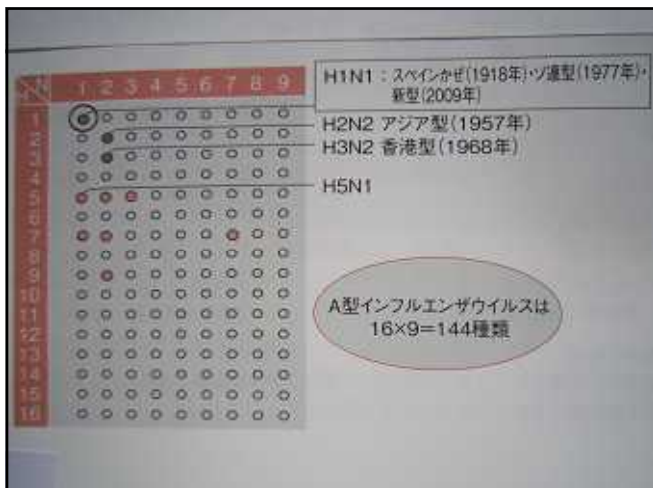
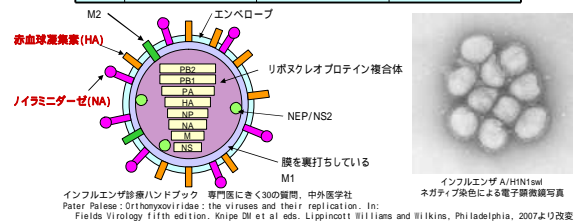
### 臨床症状として

- 突然の**高熱、咳、咽頭痛、倦怠感**に加えて、**鼻汁・鼻閉、頭痛**等であり季節性インフルエンザと類似。
- 季節性インフルエンザに比べて、**下痢や嘔吐**が多い可能性がある。

## インフルエンザウイルスとは

インフルエンザウイルスのうち、臨床問題となるのはA型とB型。

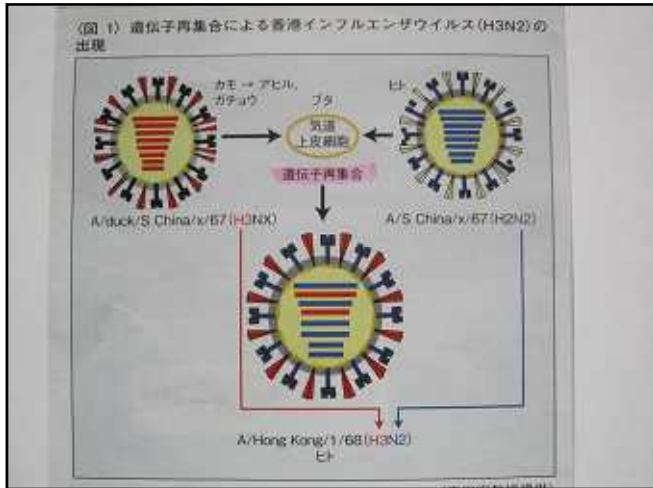
型	A	B	C
亜型	HA(H1-H16) NA(N1-N9)	なし	なし
宿主	ヒト 哺乳類(豚、ウマ等) 鳥類	ヒト まれにアザラシ	ヒト まれに豚



# 風邪とインフルエンザ

渡辺内科医院院長

渡辺 恭行



## ウイルスの変異: 不連続変異

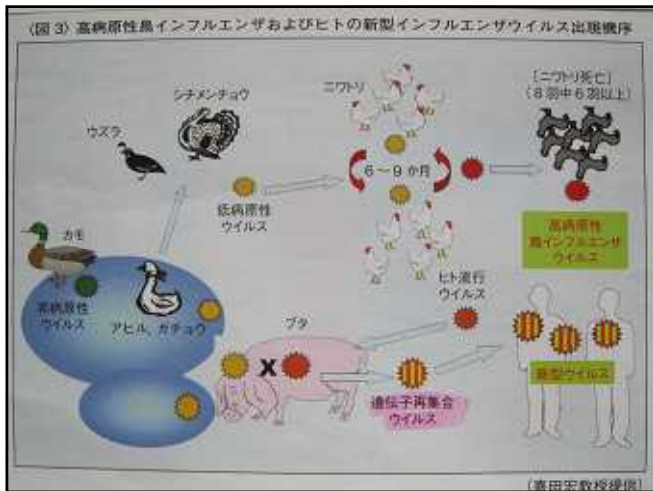
パンデミックは、ウイルスの大変異によるもの

2つの類似のウイルスが同じ細胞に感染した場合、2種類のウイルスの再集合(遺伝子再集合)を起こし、大幅な遺伝子変異の原因となる。

新型インフルエンザウイルス発生  
(これを不連続変異 (antigenic shift) という。)

鳥インフルエンザウイルスを野生水鳥が種内に保有  
鳥同士の間で感染、アヒル等を介した感染  
接触などにより、まれに人に感染  
2種類のウイルスの再集合で人から人に強い感染力を持つ新型に  
変異して、人から人への感染力を持つ新型に  
新型ウイルスの出現による人での確率的感染のおそれ

● 鳥インフルエンザウイルス  
● ヒトインフルエンザウイルス  
● 新型インフルエンザウイルス



## インフルエンザウイルスの宿主

インフルエンザは、地球上に広く分布する人獣共通感染症。

ブタ	H1N1, H2N2, H3N2 (H2N8), (H3N8)	ヒト	H1N1, H2N2, H3N2 (H2N8), (H3N8)	ウマ	H7N7, H3N8
アヒル	H1-12, N1-9	カモ	H1-16, N1-9	ミンク	H10N4
シチメンチョウ	H1-10, N1-9	ニワトリ	H4, 5, 6, 7, 9, 10, N1, 2, 4, 7	アザラシ	H7N7, H4N5, H3N3
		カモメ	H1-7, 9-13, N1-9	クジラ	H3N2, H13N9

## パンデミックとは？

パンデミックとは、ある感染症が世界的に大流行している状態のこと。

- **パンデミック (Pandemic)**
  - 「地理的に広い範囲の世界的流行および、非常に多くの数の感染者や患者を発生する流行」が原義
- **インフルエンザ・パンデミック**
  - 新型インフルエンザウイルスがヒトの世界で広範かつ急速に、ヒトからヒトへと感染して広がり、世界的に大流行している状態
  - WHOフェーズの6をもって、パンデミックとなる。

## 過去に起こったインフルエンザ・パンデミック

パンデミックは、10～40年程度の周期で起こるとされている。

スペインかぜ (1918)  
アジアかぜ (1957)  
香港かぜ (1968)  
H2N8 (1900)  
H3N8 (1918)  
H1N1 (1918)  
H2N2 (1957)  
H3N2 (1968)  
H1N1 (ソ連かぜ) (1977)  
H3N2 (1997)  
香港H5N1ウイルス事件 (1997)  
2004  
高病原性鳥インフルエンザ(H5N1, H5N2, H5N3, H7N1, H7N3, H7N7ウイルス) (1997-2004)  
日本国内におけるH5N1亜型発生 (2004)

# 風邪とインフルエンザ

渡辺内科医院院長

渡辺 恭行

## インフルエンザ迅速診断キット

### 早期診断による治療

現在、臨床の現場では、A型もしくはB型の診断のための検査としてインフルエンザウイルスの抗原を検出する迅速診断キットが頻りに用いられている。

#### <特徴>

- 検査時間約15分(添付文書)
- 特殊な設備や技術は必要ない
- ウイルス活性の有無に関係なく検出可能
- 陽性反応には一定の抗原量が必要

#### <感度>

- 検査材料:鼻腔ぬぐい液、鼻腔吸引液、咽頭ぬぐい液
- 感度:鼻腔では60~100%、咽頭では50~90%
- 発病初期(12時間以内)は感度がやや低い
- 小児と大人を比べた場合、小児の感度が高い
- 鼻腔吸引液 > 鼻腔ぬぐい液 > 咽頭ぬぐい液の順に感度が高い



## インフルエンザの治療

インフルエンザ陽性が確認されれば、抗インフルエンザウイルス薬での治療

- 抗ウイルス薬の投与
  - オセルタミビルリン酸塩
  - ザナミビル水和物
  - アマタジン塩酸塩
- 安静にして休養、十分な睡眠
- 十分な水分補給
- 解熱剤
  - 15歳未満の場合
  - アスピリン、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸は禁忌

## 抗インフルエンザウイルス薬の種類

わが国のインフルエンザ治療薬は、オセルタミビルリン酸塩、ザナミビル水和物、アマタジン塩酸塩の3種類。

	オセルタミビルリン酸塩	ザナミビル水和物	アマタジン塩酸塩
有効ウイルス	A型・B型	A型・B型	A型
対象	1歳以上	5歳以上	成人
剤形	カプセル、ドライシロップ	吸入剤	錠剤、細粒
用法・用量 (治療として用いる場合)	・成人(カプセル) 1回75mg、1日2回、5日間 ・幼小児(ドライシロップ) 1回2mg/kg、1日2回、5日間	1回10mg、1日2回、5日間	1日100mg、1日1~2回、最長1週間
半減期(t <sub>1/2</sub> )	5~7時間(成人の場合)	約2.5時間	10~12時間
排泄	腎排泄	未吸収のものは糞便中、血中に移行したものは腎排泄	腎排泄
主な副作用	カプセル: 腹痛21件(6.8%)、下痢17件(5.5%)、嘔気12件(3.9%)等 ドライシロップ: 嘔吐17件(24.3%)、下痢14件(20.0%)等 (承認時)	下痢13件(0.24%)、発疹7件(0.13%)、悪心・嘔吐7件(0.13%)、嗅覚障害6件(0.11%)等 (再審査申請時)	消化管障害27例(0.9%)、中枢・末梢神経系障害21例(0.7%)、精神障害21例(0.7%)、肝臓・胆管系障害6例(0.2%)、一般的全身障害4例(0.1%)、泌尿器系障害3例(0.1%)等 (再審査申請時)

## インフルエンザの予防の基本

インフルエンザの予防には、ワクチン接種、抗ウイルス薬の予防的投与等がある。

- ワクチン接種
- 抗ウイルス薬の予防的投与
  - 原則として、患者と十分な防御なく濃厚に接触した者で、インフルエンザに罹患した場合に重症化が予想されるハイリスク者が対象
- 人ごみを避ける
- 外出時や人ごみの中に入る時にはマスクをする
- 外出から帰ったらうがい、手洗いを行う
- 室内では加湿器などを使い適度な湿度を保つ
- バランスの良い栄養を摂る
- 休養および睡眠を十分にとる



# 風邪とインフルエンザ

渡辺内科医院院長

渡辺 恭行

## インフルエンザワクチン接種の方法(定期接種)

### < 接種対象 >

65歳以上の高齢者

60歳以上65歳未満で、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能に自己の身の日常生活が極度に制限される程度の障害を有する者およびヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者。

### < 接種方法 >

毎年度(一般的に10月下旬から12月初旬)1回、インフルエンザHAワクチン0.5mLを皮下注射する。原則として個別接種とする。

## インフルエンザワクチン接種の方法(任意接種)

### < 接種対象 >

- 感染機会の多い保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校生、特に受験期の者、基礎疾患のある小児、医療従事者、高齢施設の職員など職業上インフルエンザに罹ると困る者、また、インフルエンザの被害を受けやすい、慢性の疾患を有する者への接種も望まれる。
- 妊娠中の接種に関する安全性は確立していない。

### < 接種方法 >

毎年1回皮下注射する。接種は流行に備えて、11月中旬までに行いたい。

1回の接種量は年齢によって、次のように決められている。

13歳(中学生)以上	0.5mL
6歳以上13歳未満	0.3mL
1歳以上6歳未満	0.2mL
1歳未満	0.1mL

## 2010/2011シーズンのワクチン製造株

WHOからの情報および日本国内の流行情報などに基き選定される。

2010/2011シーズンに向けては、下記の3種類の混合ワクチンが製造される。

- A/カリフォルニア/7/2009(H1N1) pdm
- A/ビクトリア/210/2009(H3N2)
- B/ブリスベン/60/2008